星城大学大学院健康支援学研究科　研究成果報告書（論文掲載版）

報告日	2021 年 2 月 26 日						
氏名	森 優太			指導教員名	竹田 徳則		
掲載内容（　☒研究論文採択　　☐総説論文掲載　　☐その他紀要など　）							
論文採択・掲載日：	2021	年	2	月	19	日	
論文掲載雑誌名 巻・号・年	日本サルコペニア・フレイル学会雑誌（印刷中）						
doi							
タイトル：	通いの場への理学療法士の関与有無別による身体的プレフレイルと健康関連指標の変化 －1 年間の非ランダム化比較試験－						
発表者名	森 優太，竹田 徳則						
要旨	【目的】通いの場への理学療法士の関与有無別による身体的プレフレイルと健康関連指標の変化を明らかにした． 【方法】通いの場 12 箇所へ参加の身体的プレフレイル高齢者で，理学療法士の関与群 34 名と非関与群 29 名に対して，関与群には 1 回/月・90 分・12 ヶ月間の期間，集団体操や健康講話などの健康行動を促した． 【結果】1 年後の身体的プレフレイルから健常への移行率は，関与群で 48.3%，非関与群が 34.5%であった．また，関与群では老研式手段的自立，CS-30，5m 快適歩行速度，5m 最速歩行速度で有意な改善を認めた． 【結論】通いの場への理学療法士による月 1 回の集団体操や健康講話を用いた支援によって，身体的プレフレイルからの改善の可能性が示唆された．						

星城大学大学院健康支援学研究科　研究成果報告書（論文掲載版）

報告日	2021 年 2 月 26 日					
氏名	佐藤　英人			指導教員名	竹田 徳則	
掲載内容（	☒研究論文採択　　☐総説論文掲載　　☐その他紀要など					
論文採択・掲載日：	2021	年	2	月	15	日
論文掲載雑誌名 巻・号・年	作業療法（印刷中）					
doi						
タイトル：	回復期リハビリテーション病棟認知症併存患者における行動・心理症状の実態と変化					
発表者名（全員記載）：	佐藤 英人，竹田 徳則					
要旨	【目的】回復期リハ病棟における疾患別に BPSD の経過を把握し，入院中の作業療法において介入を考慮すべき BPSD の下位症状と時期を予測した． 【方法】脳血管疾患 183 名・運動器疾患 82 名の認知症患者を対象に，NPI-NH 合計点・下位症状得点それぞれを用い，有症率・重症度を入院・1 ヶ月・退院時点の経過を統計学的に分析した． 【結果】脳血管疾患の入院時 BPSD 有症率は 44.0％で，入院中に有症率と重症度は有意に改善したが，下位症状別では一部悪化を認めた．運動器疾患では入院時 29％に認め，入院中有意な変化を認めなかった． 【結論】2 疾患の入院時 BPSD 割合と経過の差異を念頭に置き，BPSD 軽減に向けた作業療法プログラム立案の必要性が示唆された．					

星城大学大学院健康支援学研究科　研究成果報告書

報告日	2020 年 11 月 4 日		
氏名	森 優太	指導教員名	竹田 徳則
掲載内容　　学会研究発表			
学会等開催日：	2020 年 9 月 27 日 ～ 2020 年 9 月 27 日		
学会等名称：	第 7 回日本予防理学療法学会学術大会		
学会等開催場所：	Web 開催		
研究・講演タイトル：	通いの場参加者に対するリハビリテーション専門職関与はフレイルと健康指標に変化を認めるか		
発表者名（全員記載）：	森 優太，竹田 徳則		
研究概要 （150 字程度）	通いの場への PT 関与の有無別による身体的プレフレイルと健康関連指標の変化を明らかにすることを目的とした．その結果，通いの場参加者における身体的プレフレイルは，1 年後に関与群では 48.3%が健常へと改善を認めた．また，関与群で老研式手段的，CS30，歩行速度快適，歩行速度最速が有意に向上していた．これらより，フレイル予防として通いの場での PT による関与の有用性が示唆された．		
感想その他 アピール欄 （100 字程度）	学会全体では，介護予防に興味関心を持ち合わせている理学療法士からの質問が多々あり，基本的事項を含めて整理することができた．また，今回は Web 形式の発表であり，参加者とメッセージで活発に情報交換ができた．		
写真添付欄 2 枚以内	～　～		

星城大学大学院健康支援学研究科　研究成果報告書

報告日	2020 年 10 月 12 日		
氏名	塚田　晋太朗	指導教員名	江西　一成，越智　亮
掲載内容（　☒研究論文採択　　☐総説論文掲載　　☐その他紀要など　）			
論文採択・掲載日：	2020　年　10　月　12　日		
論文掲載雑誌名 巻・号・年	日本基礎理学療法学雑誌（in press）		
doi			
タイトル：	脳卒中片麻痺患者の歩行解析における二次元動作解析システムを用いた膝関節角度計測の信頼性と妥当性		
発表者名（全員記載）：	塚田　晋太朗，越智　亮，細井　雄一郎，牧邨　実優，今井　一希，江西　一成		
要旨 （250 字程度）	【目的】脳卒中片麻痺患者の歩行動作における膝関節角度を二次元動作解析（以下，2DMA）と三次元動作解析（以下，3DMA）で計測し，両システムの日間信頼性，3DMA に対する 2DMA の基準関連妥当性について検討した． 【方法】脳卒中片麻痺患者 13 名を対象とし，歩行時の膝関節角度および下肢回旋角度を 2DMA および 3DMA で計測した． 【結果】日間信頼性は両システムともに高かった．3DMA に対する 2DMA の妥当性では加算誤差を認めたが，両システム間の波形類似性は高かった． 【結論】脳卒中片麻痺患者の歩行中の膝関節角度の動作解析において，2DMA は臨床で有用な評価ツールになり得ることが示唆された．		

星城大学大学院健康支援学研究科　研究成果報告書（論文掲載版）

報告日	2020 年 9 月 11 日		
氏名	森 優太	指導教員名	竹田 徳則
掲載内容（　☒研究論文採択　　☐総説論文掲載　　☐その他紀要など　）			
論文採択・掲載日：	2020 年 9 月 8 日		
論文掲載雑誌名 巻・号・年	日本サルコペニア・フレイル学会雑誌 vo.5・No,1・2020（早期公開） 学会 HP（発刊物）：http://jssf.umin.jp/news.html		
doi			
タイトル：	地域在住フレイル高齢者と社会参加活動に関する 定性的システマティックレビュー —介入効果に関する検討—		
発表者名（全員記載）：	森 優太，竹田 徳則，渡邉 良太，窪 優太		
要旨 （250 字程度）	[目 的] フレイル高齢者に社会参加活動を用いた介入がフレイルもしくは健康関連指標の改善に有効なのかをシステマティックレビューにて明らかにすることである。 [方 法] 医中誌 Web と PubMed を用い，フレイル高齢者に社会参加活動の観点から介入を報告した研究を抽出した。 [結 果] 分析対象文献は 5 件であった。社会参加活動を用いた介入は，運動・栄養教育・心理社会的プログラムを兼ね備えたグループ活動，ボランティアの通話であった。これらによりフレイル高齢者のフレイルもしくは健康関連指標が改善した。 [結 論] フレイル高齢者の改善にはグループ活動や通話などを通した人との交流が重要な可能性がある。		

星城大学大学院健康支援学研究科　研究成果報告書（論文掲載版）

報告日	2020 年 9 月 6 日		
氏名	服部良	指導教員名	太田進
掲載内容（　☒研究論文採択　　☐総説論文掲載　　☐その他紀要など　）※いずれかにチェック			
論文採択・掲載日：	年　　月　　日		
論文掲載雑誌名 巻・号・年	臨床バイオメカニクス 41 巻・133-137・2020 年		
doi			
タイトル：	腹部 Draw-in 歩行が変形性膝関節症患者の膝関節内反モーメントに及ぼす影響		
発表者名（全員記載）：	服部良　太田進　青木隆明		
要旨 （250 字程度）	変形性膝関節症(膝 OA)の予防方法としていくつかの報告があり，健常者においては腹部をへこませる運動(Draw-in：DI)により膝関節内反モーメント（KAM）が減少することが報告されている．本研究では膝 OA 患者に対して通常歩行と DI 歩行について三次元歩行解析を行い，立脚期中の KAM 最大値を比較したが両歩行方法間で有意差はなかった．DI で KAM が減少した群は外腹斜筋活動が増加し，体幹前傾角度が減少していたが，KAM が増加した群は外腹斜筋活動および体幹前傾角度に有意差はなかった．KAM 減少には確実な DI 操作を行い，体幹アライメントを改善させる必要があると考えられた．		